

3 4 あいちトリエンナーレに対する支援について

(文部科学省)

【内容】

国内最大規模の総合的な国際芸術祭である「あいちトリエンナーレ」は、我が国の文化芸術を牽引し、世界の文化芸術の発展に貢献するとともに、地域の活性化に大きく寄与する取組であることから、開催年以外に行われるトリエンナーレ関連事業を含めて、芸術祭に係る取組全体を継続的に支援すること。

(背景)

- 国は、平成24年度から、「地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ事業」において、地方公共団体が企画する文化芸術の創造発信事業に対して支援を行っている。
- 本県では、第2回目となる国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2013」を平成25年8月から10月に開催し、国際展のクオリティを始め、舞台芸術との複合性、まちなか展開、普及・教育事業、地元文化芸術団体と共催した舞台公演、地元芸術大学と共催した展覧会などの「愛知の独自性」により、専門家などからも高く評価された。
- また、初回開催後の平成23、24年度には、その成果を県内地域に伝え、現代美術、複合芸術の普及・定着を図ることにより、次回開催への期待感を醸成させるため、「あいちトリエンナーレ地域展開事業」を実施し、次代を担う若手芸術家の発掘・育成を行うとともに、子ども達に文化芸術に触れてもらい、本県における文化芸術の裾野を広げた。
- 今後も、本県では、常に新たな視点で先端的な芸術と社会や時代との関わり方などを提示する「あいちトリエンナーレ」を継続開催することにより、世界で最も権威のあるヴェネツィア・ビエンナーレのような発信力の高い国際芸術祭に発展させることを目指している。
- 国は、大規模で総合的・複合的な取り組みとして地域の活性化にも大きく寄与する「あいちトリエンナーレ」の開催及び、開催年度以外に行われる地域展開事業などの関連事業も含めた芸術祭全体を継続的に支援することで、「文化芸術の世界的拠点」として育成し、我が国及び世界の文化芸術の水準向上を図る必要がある。

(参 考)

あいちトリエンナーレ 2013

テ ー マ 揺れる大地—われわれはどこに立っているのか:場所、記憶、そして復活

会 期 平成 25 年 8 月 10 日(土)から 10 月 27 日(日)(79 日間)

会 場 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内・岡崎市内のまちなか

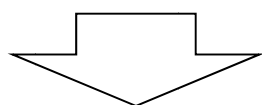
芸術監督 五十嵐 太郎 (東北大学大学院工学研究科教授(都市・建築学))

【現代美術】現代美術の国際展、企画コンペによる展示、移動型展示 等

【舞台芸術】パフォーミングアーツ、オペラ「蝶々夫人」

【普及・教育】キッズ・トリエンナーレ、学校向け鑑賞プログラム、アーティスト派遣 等

【祝祭的展開・まちなか展開】地元文化芸術団体や芸術大学との共催・連携事業 等



《 成果の継承 》

あいちトリエンナーレ地域展開事業

目 的 あいちトリエンナーレの成果を県内地域に伝え、現代美術、複合芸術の普及・定着を図り、次回開催への期待感を醸成する。
次代を担う若手芸術家の発掘・育成を行うとともに、子ども達に文化芸術に触れてもらい、本県における文化芸術の裾野を広げる。

平成 26 年度 (事業費 44,469 千円)

[現代美術展]

豊川:作家 30 組程度



[おでかけ展示]

(展示)
豊川、蒲郡、新城
:現代美術展作家 10 組程度



(学校へのアーティスト派遣)



[若手芸術家育成]

(企画募集)
名古屋:選考 15 企画程度



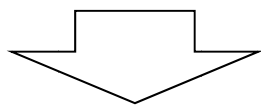
[地元文化団体活用]

(キッズコンサート)
江南市、みよし市



※写真は、イメージ

平成 27 年度 県内各地で各種事業を実施。



《 期待感の醸成 》

あいちトリエンナーレ 2016

現代美術を基軸とし、舞台芸術なども併せて展開する総合的・複合的な国際芸術祭の開催。
世界の文化芸術の発展に貢献する。